学校番号	302

平成 31 年度　音楽科

教科	音楽	科目	演奏研究Ⅱ (声楽)	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の音楽２（教育芸術社）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・この授業では、声楽専攻の生徒が集まって授業を行います。
・教科書と筆記用具、プリントを綴じるためのファイルを必ず持参してください。
・声楽専攻実技や音楽理論、音楽史などで学んだこと結びつけ、将来にプロの音楽家として必要とされる音楽的総合力を身につけます。

音楽的総合力を身につけるために学ぶこと（２年次）

① 時代や地域による表現上の特徴や作曲家の表現上の特徴を踏まえて楽曲を分析する事ができ、調べたことを言葉によりまとめる力＝プログラムノートや楽曲についての分析レポートを自分で作成します。
② 声の特徴を踏まえた解釈や歌詞のディクション（ドイツ語）を身につけること＝自分一人で楽譜に書いてある歌詞や記号について解釈して譜読みができるようにします。
③ 演奏会を企画・実演する力＝演奏会の成り立ちを学び、舞台での所作を身につけ、年度末には、学んだことを発表する場として企画・運営・実践、演奏発表など自分たちで計画した演奏会を実施します。
④ 和楽器の演奏技術と音楽理論で培った創作を応用し、ハワイのプナホウ高校と国際交流を行い、プナホウ高校の卒業ソングを創作しテレビ会議を通じて海を越えたコンサートを実施する。（約６時間）

2　学習の到達目標

音楽作品についての演奏研究を通して、演奏における客観性と多様性を理解し、音楽の様式を尊重して演奏する力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への 関心・意欲・態度	b:音楽表現の 創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽文化を尊重し、主体的、創造的に音楽の学習を行い、演奏発表の場では演奏を共有し、互いに研究した解釈などの成果物を評価しあったりする活動に積極的に取り組もうとする。	音楽を形作っている要素を楽譜や歴史的背景や作曲家の表現上の特徴と結びつけて知覚し、それらの動きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持ち、言葉や演奏で表現することができる。	声の特徴を踏まえた解釈や演奏、作曲家の表現上の特徴を踏まえた解釈を必要となる資料を活用して情報収集しまとめることができ、それを自らの演奏や言葉の表現に活用することができる。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、価値を判断し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わい、自らが解釈したことを言葉によって言い表すことができる。
評価方法	授業観察 ワークシート	授業観察 演奏聴取 ワークシート	演奏聴取 ワークシート	授業観察 ワークシート レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４．学習の活動

月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			関心・意欲・態度	創意・工夫	技能	鑑賞の能力		
4～8	ドイツ歌曲の歴史とドイツ語ディクション・リートにおけるピアノと歌の関係性	①　ドイツ歌曲の魅力を探る ・ドイツ語の特徴とその発音 ・ドイツ語ディクション ・ドイツ歌曲の詩とピアノの関係性 ・ドイツ語における詩の朗読（音楽のフレーズと詩の持つアクセント、イントネーションとの関わり）	○	○	○ ○	○	a 積極的に活動している。 b 朗読する際に、ドイツ語の発音や特性を掴んで朗読できる c ドイツ語を正しく歌うためのディクション、イントネーションの知識を身につけ、その知識を実践できる技術がある d 他者の発語について良し悪しがわかる	観察 ワークシート 小ディクションのテスト
		②　ドイツ語の作品を知る 歌曲とオペラ作品について ・マイベスト曲についてプレゼンしよう！～i-Pad を使って、みんなに是非知ってほしい My best ドイツ歌曲を調べてその曲のよさをプレゼンしよう。	○	○	○	○	a　積極的に参加している b 良さを知ってもらいたい曲について解釈・分析でき、聴く人にわかりやすい資料としてまとめプレゼンテーションができる。 c プレゼンテーションの内容根拠を明確に示し、自らの意見を伝えることができる d 他者の発表について、自分なりの意見を文章にまとめられる。	授業観察 プレゼンのためのワークシート プレゼン内容と発表

9～10	ドイツ語の作品を知る	③　ドイツ作品をアンサンブルする ・声楽専攻生で声楽アンサンブルを楽しもう ・声を合わせるための秘訣 （母音と子音、変母音の発語法の実践）	○	○	○	○	a 他者と協力して積極的に活動できる。 b アンサンブルをする上で気必要な技術を応用して実際に演奏することができる c アンサンブルを美しいハーモニーで演奏することができる d 互いに演奏を高めるためのアドヴァイスを的確に行うことができる	授業観察 演奏聴取 ワークシート
10～3	ドイツ語の作品をアンサンブル演奏する	◆みんなで演奏会を企画しよう（学習したことの応用実践） ・ドイツ語の声楽アンサンブル作品を演奏する演奏会の企画を自分たちで企画する。 ・演奏会が成立するために必要な役割を知り、実際に運営する。 ・演奏する曲に関して、プログラムノートとして歴史的背景などをまとめた文章を記載する。 ・プログラミングの意図や解釈などを文章にプログラムを作成する。 ・年度初めに学んだ舞台マナーの実践の機会とする。 ・演奏会は記録し、まとめとして自らが干渉することで振り返り、客観的に演奏会の企画・演奏の内容について要素別に互いに批評する機会とする。 ④プナホウ高校との海を越えたコンサート ・テレビ会議を通じた交流を行い、卒業ソングにふさわしい歌詞について相談する ・歌詞のイメージに合った曲に和楽器を使って創作する ・テレビ会議を通じて創作した曲で演奏会を行う	○